

桜蔭俳話会 三月句会 (第三七三回)

平成三十一年三月二十四日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

〔添削句〕

〔原句〕

創世の星の欠片やいぬふぐり 秀夫

〔理由〕星といぬふぐりを対比させるのは良

〔添削案〕

大円を巡る星屑いぬふぐり

〔原句〕

春一番重きリュックの千鳥足 友子

〔理由〕原因と結果

〔添削案〕

春一番重きリュックの背を立つる

〔原句〕

緋木瓜咲く今日はどの面かぶらうか 才美

〔理由〕上五が整理されていない。

〔添削案〕

木瓜の花今日はどの面かぶらうか

〔原句〕

ひもすがらラジオ流るる春の風邪 友子

〔理由〕この句では中七と下五の間、切る

と良い。

〔添削案〕

ひもすがらラジオ流れし春の風邪

〔原句〕

いざ行かん紅梅薫る黄泉の国 眞壽

〔理由〕弔句には「いざ行かん」は少し無

理か。

〔添削案〕

旅立ちの紅梅薫り黄泉の国

〔原句〕

彼岸寺つがいの影の西のそら 秀夫

〔理由〕「彼岸」には「西」は使わない。

〔添削案〕みんなみのつがいの影や彼岸寺

〔原句〕

山笑う会津土魂や今は無く 眞壽

〔理由〕上下を入れ替えてみる。

〔添削案〕

再びの会津の土魂山笑ふ

〔原句〕

残し置くひとつのメール卒業す 友子

〔理由〕「残し置く」この句では、常套的であ

る。

〔添削案〕

封印のひとつのメール卒業す

〔原句〕

炯眼の黒猫過ぎる実千両 幸

〔理由〕春の季語に置き替える。

〔添削案〕

炯眼の黒猫過ぎる初桜

〔原句〕

清明のメモを見て書くわが住所 秀夫

〔理由〕言い回しを少し変えてみる。

〔添削案〕

清明のメモ見て記すわが番地

〔原句〕

物忘れひどくなりしや錨草 ヤエ子

〔理由〕言い回しを変えてみる。

〔添削案〕

物忘れ誰に似たるや錨草

(文責 代表 増田 守)

(欠席投句 古野明美、稲葉幸)